

音楽科学習指導案

指導者

1 日 時 平成30年9月26日(水)第3校時(10:45~11:30)

2 学年・組 第1学年2組(26名)

3 場 所 1年2組教室

4 題 材 おとをあわせてたのしもう

- 5 題材の目標
- ・互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、気持ちを合わせて歌ったり演奏したりすることができる。
 - ・楽器の響き合いに気付き、拍の流れやフレーズを感じ取りながら楽しんで聴くことができる。

6 題材設定の意図

(1)児童の実態

本学級の児童は、音楽科に限らず何事にも興味を持って前向きに楽しんで取り組むことができる。授業中の発表や発言は、自分の思いや考えを学級の児童の前で話すことができるようになった児童が増えた。しかし、みんなの前で話すときには声が小さく、自信がなさそうにする児童もいることが現状である。また、各児童がマイペースであるということも特徴的である。音楽科の授業を好む児童が多いと感じられ、積極的に授業を受けることができている。

歌唱については、元気よく楽しそうに歌うことができおり、身体表現を通して楽曲の気分を感じることができている。しかし、伴奏が聞えなくなるほど自分勝手に大きな声を出していたり、友達と声を合わせて調和のとれた合唱をしたりすることはできていない児童がみられる。本題材で友達の声に耳を傾けてそれと合わせて歌唱ができるように指導したい。

器楽については、題材「どれみでうたったりふいたりしよう」で鍵盤ハーモニカを使って「どんぐりさんのおうち」でドとソの位置を確かめて吹き、「どれみであいさつ」ではどれみを歌い、音を覚えた後、ドレミを吹いて位置を確かめた。児童は積極的に楽しんで取り組むことができている様子であった。多くの児童は音の位置を覚えて吹くことができるようであったが、「どれみであいさつ」では1音階離れて吹くことには難しさを感じている児童もいた。

音楽づくりについては、題材「にほんのうたをたのしもう」の中の「おちゃらかほい」で手遊びをしながら楽しんで歌うことができた。これについては、どの児童も楽しく上手に取り組むことができた。

鑑賞については、題材「ようすをおもいうかべよう」で「おどるこねこ」を聴いた。楽曲を聴いて感じたことやリズムの変化に気付くことができ、積極的に発言ができている様子が見られた。児童は、こねこの鳴き声が聴こえる部分をこねこの真似をして体を動かしながら聴いたり、「踊っているような感じ」という児童の発言から、楽曲に合わせて自由に体を動かして踊っている気分を感じたりすることができていた。中には恥ずかしい気持ちから身体表現をすることが苦手な児童もいるが、周りの児童の様子を見ながら楽曲の気分を感じることはできていた。

(2)題材について

本題材「おとをあわせてたのしもう」は、友達の歌声や楽器の音を聴きながら、音や気持ちを合わせて演奏する能力を育てることに重点を置いている。歌唱の活動を通して、正しい音程やリズムなどに対する感覚を身に付け、

伴奏の響きをよく聴いて歌う活動を通して、調和のとれた歌唱の素地を養っていくことができる。友達と声を合わせたり、伴奏と合わせたりすることで自分の声だけでなく、周りの音と合わせて歌おうという意識が生まれ、自分勝手な歌い方ではなく、強弱やリズムに気を付けて声の出し方を工夫することができる。体を使って拍の流れを感じたり、友達の歌声に耳を傾けたりする活動から始め、問いと答えの歌の形式に慣れ、伴奏の響きに合わせて自分の歌声に気を付けて歌うことと同時に心を合わせて歌おうという意欲を育てられるように学習を進めていく。最終的には、みんなの歌声や楽器の音を合わせることによって、さらに音楽の楽しみが広がることに気がつくようにしたい。

第1次では、「やまびこごっこ」と「やまびこあそび」を扱い、交互唱の面白さを感じ取りながら楽曲の気分にあった表現で拍の流れにのって歌うことができるようにする。「やまびこごっこ」の範唱を聴いて情景を思い浮かべたり、役割分担をして呼びかけ役と山びこ役に分かれて声の強弱や拍の流れにのって楽曲の気分にあうように歌ったりできるようにする。

第2次では、「とんくるりんぱんくるりん」を扱い、拍打ちをしたり拍の流れを感じとって歌ったりする活動を通して、3拍子に対する感覚を育てる。また副次的な旋律を階名唱したり鍵盤ハーモニカで演奏したりする。最後に、拍の流れを感じ取りながら歌と楽器を合わせて演奏する。

第3次では、「こいぬのマーチ」を扱い、鍵盤ハーモニカなどの楽器の学習のまとめとして音を合わせる楽しさを味わう。主な旋律を歌詞唱して楽曲の気分を感じ取るようにする。さらに、主な旋律を階名唱してから鍵盤ハーモニカや鉄琴で演奏する。音量のバランスに気を付け拍の流れを感じ取りながら演奏するようにし、旋律楽器と打楽器を合わせて互いの音を聴き合いながら演奏する。

第4次では、「ラデツキーこうしんきょく」を扱い、拍の流れや強弱の違いを感じ取って手拍子を打ったり、楽曲の気分の変化を感じ取って体を動かしたりしながら音楽を聴く活動を通して、楽曲の楽しさや演奏のよさに触れるようにする。

7 教材について

「やまびこごっこ」 おうちやすゆき 作詞/若月明人 作曲

呼びかける側と答える側に分かれて、互いの声を聴き合い、1小節ごとに同じフレーズを呼応する楽しみを味わうことができる。 $a_2+b_2+c_2+d_2+e_2+f_2$ の自由な形式で、音楽の構成の基本である「問いと答え(模倣)」を楽しみながら学習することができる。やまびこの情景を思い浮かべながら声の強弱などを工夫して歌うことができ、体を使って表現をすることもできるため、第1学年でも表現がしやすいものである。

「とんくるりんぱんくるりん」 滝紀子 作詞/川崎祥悦 作曲

3拍子の学習を目的としてつくられたオリジナル曲で歌詞のもつ語感そのまま旋律に生かされている。 $a_4+b_4+a_4$ の三部形式で、生き生きと弾む感じの $\boxed{あ}$ と滑らかに流れるような感じの $\boxed{い}$ の対比が特徴的である。

「こいぬのマーチ」 久野静夫 作詞/作曲者不明/黒澤吉徳 編曲

かわいい子犬に対する子どもの心情を歌っている。 $A(a_4+a'4)+B(b_4+b'4)$ の二部形式で、4分音符で構成される $\boxed{あ}$ の旋律とのびのびとした2分音符のリズムが特徴的な $\boxed{い}$ の旋律との対比が明確な曲である。ド～ラの6音だけで旋律が表現されており、これまでの学習経験を基に楽器による演奏を十分に楽しむことができる。

「ラデツキー行進曲」 ヨハンシュトラウス(父) 作曲

ヨハンシュトラウス(父)(1804～1849)による1848年の作品。全体は主部(二長調)ートリオ(イ長調)ー主部という構成であり、それぞれの部分はいずれもA・B・Aの形になっている。ウィーンフィルハーモニー管弦楽団のニューイヤークンサートでアンコール曲として必ず演奏されることでも有名であり、世界中の人々に親しまれている。

8 題材の評価基準

	【関】音楽への関心・意欲・態度	【創】音楽表現の創意工夫	【技】音楽表現の技能	【鑑】鑑賞の能力
歌唱	○	○	○	
器楽	○	○	○	
録り		○		
鑑賞				○
題材の評価基準	<p>①友達の歌声や楽器の音に興味・関心を持ち、互いに聴き合いながら表現する活動に取り組もうとしている。</p> <p>②楽曲の気分を感じ取りながら範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりする学習に取り組もうとしている。</p> <p>③友達の楽器の音を感じながら合奏する学習に取り組もうとしている。</p>	<p>①自分や友達の声の強弱を聴き取り、山びこのようにまねる面白さを感じ取りながら、声の出し方を工夫している。</p> <p>②音色やリズム、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら演奏の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。</p> <p>③フレーズを聴き取って、楽器の響きの違いを感じ取りながら、音の出し方を工夫し、どのように表現するかについて思いをもっている。</p>	<p>①友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせたり強弱の違いを表現したりして歌っている。</p> <p>②範奏を聴いたり絵譜を見たりして音色に気をつけながら拍の流れを感じ取って演奏している。</p> <p>③互いの歌声や音を感じ、声や楽曲の組み合わせによる響きを感じ取りながら歌ったり演奏したりしている。</p>	<p>①旋律の反復や強弱の違いを感じ取り、楽曲全体にわたる気分を楽しんで聴いている。</p> <p>②拍の流れを感じ取りながら体を動かし、行進曲の楽しさに気付いて聴いている。</p>

9 指導と評価の計画

	学習のねらい	○学習内容 ・学習活動 *留意点	評価基準 (評価の方法)
<p>第1次 2</p>	<p><ねらい> 交互唱の面白さを感じ取りながら、楽曲の気分にあった表現で拍の流れにのってうたうことができるようにする。 <教材> やまびこあそび・やまびこごっこ 〔共通事項〕 ア(ア) 強弱、拍の流れ (イ) 問いと答え</p>		
<p>1</p>	<p>○互いの声を聴き合い、友達の声まねを楽しむことから意欲的に音遊びに取り組めるようにし、楽曲の気分についても感じ取る学習に進んで取り組めるようにする。</p>	<p>○教師や友達の声まねっこをして「やまびこあそび」を楽しむ。 ・遊び方を知り、様々な言葉で「やまびこあそび」をする。 *「やまびこ」についてどのようなものかということや声の出し方について発問し、話し合う。 ・教師⇒児童,児童⇒教師,児童⇒児童のように相手や方法を変えて「やまびこあそび」をする。 *声の出し方や調子,スピードを変えるなどして、「やまびこあそび」を楽しめるようにする。 *「やっほー」や「おーい」などの短い言葉で強弱やスピードを変えることに慣れたら、「遊ぼう」などの他の言葉でも遊ぶ。子どもの発言・つぶやきから言葉を拾って楽しめるようにする。 ○「やまびこごっこ」の範唱を聴いて楽曲の気分を感じ取り歌う。 ・「やまびこごっこ」の範唱を聴き曲の感じを話し合い,楽曲の情景を歌詞から考える。 *歌詞を提示し「やまびこあそび」のようにまねをして歌う歌であることに気づかせる。 ・範唱を聴きながら山びこの部分を情景を想像しながら歌う。 *教師⇒児童,児童⇒教師,児童⇒児童のように相手や方法を変えて交互唱をして,面白さを感じ取れるようにする。</p>	<p>【創】—① 自分や友達の声の強弱を聴き取り,山びこのようにまねる面白さを感じ取りながら,声の出し方を工夫している。 (行動観察,発言内容)</p> <p>【関】—② 楽曲の気分を感じ取りながら範唱を聴いて歌ったり,階名で模唱したり暗唱したりする学習に取り組もうとしている。 (行動観察,演奏聴取)</p>
<p>2 本時</p>	<p>○交互唱の面白さを感じ取り歌い方の工夫をして,拍の流れにのって楽曲の気分にあった表現で歌うことができるようにする。</p>	<p>○交互唱の面白さを感じ取り強弱などを工夫して「やまびこごっこ」を歌う。 ・「やまびこごっこ」を全体で歌い,どのようなことに気を付けて歌えば良いか考える。 *呼びかけ役と山びこ役で音の強弱があることに気付くことができるようにする。</p>	<p>【技】—① 友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせた強弱の違いを表現したりして歌っている。 (演奏聴取)</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて歌い方の工夫を考え、練習する。 *体を使って表現できること、口の開け方や歌い方もまねると良いことを助言する。 ・グループごとに交替して「やまびこっこ」を聴き合う。 *聴く観点を示して、演奏の良かった点・改善点に気付くようにする。 ・歌を聴いて気付いたことを伝え合う。 ・自分たちの歌い方に生かし全員で歌う。 	
第2次	<p><ねらい> 3拍子に対する感覚を育て、拍の流れを感じ取りながら歌と楽器を合わせて演奏できるようにする。</p> <p><教材> とんくるりんぱんくるりん</p> <p>[共通事項] ア(ア) 旋律、拍の流れ、音色、リズム</p>		
3	<p>○拍の流れを感じ取り、楽曲の気分に合った表現をする活動に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>○楽曲の気分を感じ取って歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱を聴いたり範唱に合わせて歌詞を口ずさんだりする。 ・教科書の挿絵を参考にして、3拍子の楽曲に合った体の動きを工夫する。 *あといの後に、もう一度あが繰り返されて曲ができていることを伝える。 *あは1拍の拍打ちいは3拍を一まとまりに感じるリズム打ちをして、3拍子の楽曲の気分を感じ取るようにする。 ・旋律や言葉の感じを生かして歌う。 *“とんくるりん”などの語感を生かして歌うように促す。 <p>○拍の流れを感じ取って副次的な旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副次的な旋律を階名唱する。 *音程を意識しながら繰り返し階名唱する。 ・運指に気を付けて鍵盤ハーモニカで演奏する。 ・歌のパートと合わせて演奏する。 *歌詞唱や階名唱を聴きながら演奏するように助言する。 	<p>【関】-① 友達の歌声や楽器の音に興味・関心をもち、互いに聴き合いながら表現する活動に取り組もうとしている。 (行動観察、演奏聴取)</p>
4	<p>○音色やリズムの違いに気を付けながら、打楽器や歌の演奏の仕方の工夫や表現の方法について思いをもつことができるようにする。</p>	<p>○打楽器パートを加えて演奏の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打楽器パートのあといのリズムの違いを感じ取りながらリズム打ちをする。 *「トン」「トーン」などの言葉や体の動きでリズムを表現して、音符の長さやリズムの違いを 	<p>【創】-② 音色やリズム、旋律を聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら演奏の仕方を工夫し、どのよ</p>

5	<p>○歌,鍵盤ハーモニカ,打楽器に分かれて音色に気を付けながら拍の流れを感じ取って演奏できるようにする。</p>	<p>感じ取れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の仕方を工夫して歌と打楽器のパートを合わせる。 *感じ取った違いを楽器の演奏の仕方に反映するように助言する。 <p>○拍の流れを感じ取って,歌と楽器を合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打楽器のパートを演奏する。 *タンブリンのグループとトライアングルのグループに分かれ交替して練習する。 ・歌の組と楽器の組に分かれて練習する。 *歌,鍵盤ハーモニカ,打楽器の3つの組に分かれ,歌と楽器を分担する。 ・拍の流れを感じ取って,歌と楽器を合わせて演奏する。 *互いのパートをよく聴き合いながら演奏するように注意を促す。 ・グループに分かれて練習する。 ・グループごとに交替して,互いの演奏を聴き合う。 *聴く観点を示して演奏の良かった点・改善点に気付くようにする。 ・友達の演奏について気付いたことを発表する。 ・自分たちの演奏に生かして全員で合奏する。 *友達の良いところを取り入れたり改善すべき点に気を付けたりして合奏をまとめる。 	<p>うに表現するかについて思いをもっている。</p> <p>(演奏観察)</p> <p>【技】-②</p> <p>範奏を聴いたり絵譜を見たりして音色に気を付けながら拍の流れを感じ取って演奏している。</p> <p>(演奏聴取)</p>
第3次	<p><ねらい></p> <p>互いの楽器の音を聴きながら音色に気を付けて鍵盤ハーモニカや鉄琴を演奏できるようにし,歌に合ったリズムで打楽器を演奏できるようにする。</p> <p><教材> こいぬのマーチ</p> <p>[共通事項] ア(ア) 旋律,拍の流れ,音色,リズム,フレーズ</p>		
6	<p>○楽曲の気分を感じ取りながら,範唱を聴いたり,階名を暗唱したりすることに進んで取り組もうとしている。</p>	<p>○楽曲の気分を感じ取って歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範唱に合わせて手拍子を打ったり歌詞で歌ったりする。 ・子犬のかわいい様子を思い浮かべて歌う。 *音楽に合わせて行進するなど,拍の流れにのる楽しさや心地よさを感じ取るようにする。 *音程や音符の長さに気を付けて歌うようにする。 ・いの旋律の動きに気を付けて階名唱をする。 *教師のあとに続けて1フレーズずつ階名唱す 	<p>【関】-②</p> <p>楽曲の気分を感じ取りながら範唱を聴いたり歌ったり,階名で模唱したり暗唱したりする学習に取り組もうとしている。</p> <p>(演奏観察,演奏聴取)</p>

7 8	○音色に気を付けてフレーズを聴き取り,鍵盤ハーモニカと鉄琴の音の出し方を工夫し,表現の仕方について思いをもつことができる。	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4拍子の拍の流れを感じ取って,歌詞で歌ったり絵譜を指しながら階名で歌ったりする。 *旋律楽器を演奏する準備として階名で暗唱できるようにする。 <p>○音色に気を付けて旋律楽器を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律に気を付けて指導用 CD を聴く。 *歌詞や階名を口ずさみながら旋律に気を付けて聴くように促す。口ずさんで聴くグループと聴くだけのグループに分け,交替しながら音に集中して聴くようにする。 ・鍵盤ハーモニカのパートと鉄琴のパートを分担し,音色に気を付けて旋律を演奏する。 ・フレーズを感じて音の出し方を工夫しながら演奏する。 *音色に気を付け,歌うようなつもりで演奏するように助言する。 *いの部分では,鉄琴のパートを全員が経験できるように交替して演奏するよう指示する。 *優しい気持ちで互いの音をよく聴き合って演奏するように助言する。 	<p>【創】-③</p> <p>フレーズを聴き取って,楽器の響きの違いを感じ取りながら,音の出し方を工夫し,どのように表現するかについて思いをもっている。</p> <p>(演奏観察,演奏聴取)</p>
9	○歌に合わせて互いの楽器の音を聴き,音量に気を付けて楽器の組み合わせによる響きを感じながら打楽器を演奏することができるようにする。	<p>○歌に合わせてリズム伴奏の仕方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導用 CD の範唱に合わせて,手拍子や楽器でそれぞれのリズムを打つ。 ・楽器を組み合わせるリズム伴奏を打つ。 *リズム打ちが乱暴になったり速くなったりしないよう歌に合わせて打つように助言する。 *打楽器のリズム伴奏も全員が経験できるように交替しながら打つようにする。 ・歌に合わせて音量に気を付けながら交替でリズム伴奏をする。 *聴くグループを作って,音量のバランスに子ども自身が気付くようにする。 	<p>【技】-③</p> <p>互いの歌声や音を聴き,声や楽曲の組み合わせによる響きを感じ取りながら歌ったり演奏したりしている。</p> <p>(演奏聴取)</p>
10	○友達の楽器の音をよく聴きながら,拍の流れを感じ取って演奏する学習に進んで取り組めるようにする。	<p>○互いの音をよく聴きながら,拍の流れを感じ取って合奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器を分担し全員で合わせて演奏する。 *演奏が拍の流れに合うように聴き合って演奏するように助言する。 ・2つのグループに分かれて演奏し,互いの演奏 	<p>【関】-③</p> <p>友達の楽器の音を聴きながら合奏する学習に取り組もうとしている。</p> <p>(演奏聴取,演奏観察)</p>

		<p>を聴き合う。</p> <p>*聴く観点を示して、演奏の良かった点・改善点 に気付くようにする。</p> <p>・自分たちの演奏に生かして互いの音をよく聴 きながら全員で合奏する。</p>	
第 4 次	<p><ねらい> 音楽に合わせて行進したり、強弱の変化に合わせて手拍子を打ったりして、楽しみながら聴くことが できるようにする。</p> <p><教 材> ラデツキーこうしんきょく</p> <p>[共通事項] ア(ア) 旋律、強弱、拍の流れ、フレーズ (イ) 反復</p>		
11	<p>○楽曲の気分や拍の流れ、 強弱の変化を手拍子や 体の動きから感じ取っ て楽しみながら聴くこ とができるようにする。</p>	<p>○楽曲の気分を感じ取って聴く。</p> <p>・冒頭部分を聴き、曲の雰囲気を感じ取る。</p> <p>*曲全体の構成を捉えやすくするため、4小節の 前奏を数回聴き、口ずさめるようにする。</p> <p>・主な旋律が聴こえたところで挙手しながら、曲 全体を聴く。</p> <p>*前奏に続く4小節間を口ずさみ、主な旋律に親 しむようにする。</p> <p>*主な旋律が出たところで挙手して、旋律が反復 していることに気付くようにする。</p> <p>○拍の流れや強弱の変化を感じ取って聴く。</p> <p>・拍の流れを感じ取って、手拍子を打ちながら聴 く。</p> <p>・聴こえてきた音楽の強弱に合わせて手拍子の 打ち方を工夫する。</p> <p>*急に变化する強弱を感じ取って、手拍子の打ち 方を工夫するように促す。</p> <p>・手拍子を打ちながら聴くグループとそれを見 ながら聴くグループに分かれて繰り返し聴く。</p> <p>*手拍子や体の動きから強弱の変化に気付いて いるかを見取り、強弱の変化に合っている児童 を紹介する。</p>	<p>【鑑】-①</p> <p>旋律の反復や強弱の違 いを聴き取り、楽曲全 体にわたる気分を楽し んで聴いている。</p> <p>(行動観察、発言内容)</p>
12	<p>○拍の流れを感じ取りな がら足踏みや行進をし たり体を動かしたりし て、行進曲の楽しさを味 わいながら聴くことが できるようにする。</p>	<p>○楽曲の気分に合わせて体の動きを工夫しなが ら聴く。</p> <p>・音楽を聴いて拍の流れを感じ取りながら足踏 みをしたり行進をしたりして、楽曲の気分にあ わせて体の動きを工夫しながら聴く。</p> <p>*強弱の変化を基にフレーズを感じ取り、歩く方 向を変えたり音が弱くなったところで腕の振 り方を小さくしたり足踏みをしたりするよう に促す。</p>	<p>【鑑】-②</p> <p>拍の流れを感じ取りな がら体を動かし、行進曲 の楽しさに気付いて聴 いている。</p> <p>(発言内容、行動観察)</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループに分かれて、楽曲の気分に合わせて行進する様子を見合う。 *腕の振り方や歩く方向を変えるタイミングなどの体の動きから楽曲の気分の変化に気付いているかを見取り、ふさわしい動きを紹介する。 ・楽曲の楽しさを味わいながら全体を通して聴く。 	
--	--	---	--

10 本時の学習

(1)目標

交互唱の面白さを感じ取り歌い方の工夫をして、拍の流れによって楽曲の気分に合った表現で歌うことができる。

(2)展開

学習活動 ○発問 ・児童の反応	留意点	評価基準 (評価の方法)
1.「やまびこごっこ」の曲の気分を確かめて歌う。 ○どのような感じがする歌だったでしょう。 ・大きい山で山びこをしている感じ ・明るい感じ ・楽しそう 2.本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習したことをふまえて全体で交互唱をし、曲の気分を感じ取れるようにする。 ・児童を2つのグループに分けて、児童⇒児童で交互唱をする。 	
きょくのようにあった うたいかたで うたおう。		
3.グループに分かれて歌い方を考え練習する。 ○「やまびこごっこ」の曲の様子に合うようにどのような歌い方をすればよいでしょう。 ・呼びかけのところは大きな声で歌う。 ・山びこ役のところは聴いているように動作をつける。 4.グループごとに交替して「やまびこごっこ」を聴き合い、感じたことや気づいたことを話し合う。 ○それぞれのグループの「やまびこごっこ」を聴いて、良かったことや気が付いたことはありますか。 5.全員で歌い、学習をふりかえる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体でおおまかな歌い方のイメージを持つために話し合う。 ・「やまびこごっこ」の楽曲の様子に合った歌い方の工夫を考えられるように、体を使って良いことや口の開け方や歌い方をまねすると良いことを助言する。 ・机の配置を変えて発表が見やすいようにする。 ・聴く観点を示して、演奏の良かった点・改善点に気付くようにする。 ・聴く観点 ①曲の様子に合っているか。 ②歌い方を工夫できているか。 ・聴いた歌い方を生かせるように楽曲の様子に合った歌い方で歌う。 	【技】-① 友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせたり強弱の違いを表現したりして歌っている。 (演奏聴取)

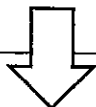
(3)評価基準の実際 (第2次4/4)

評価基準とその具体の姿

○評価基準

【技】-①

友達の歌声を聴きながら自分の声を合わせたり強弱の違いを表現したりして歌っている。



○支援が必要とされる子どもへの働きかけ

- ・教師がどのように表現できるのかを一緒に身ぶりを
使って考える。
- ・歌詞の文字の大小を付けて掲示し、声の強弱をつけ
ることを示す。

○質的に高まった状況

- ・友達の声と伴奏の音にも耳を傾けて、調和のとれた
表現で歌っている。
- ・自分なりに考えた工夫で進んで表現しながら歌って
いる。

○具体的な評価方法

歌っている様子、表情、発言などから拍の流れによって声の出し方を工夫できているかを判断する。

(4)板書計画

やまびこごっこ

- ①みんなで
- ②めあて
- ③グループで
- ④はっぴよう
- ⑤みんなで

きよくのようすに あった うたいかたで うたおう

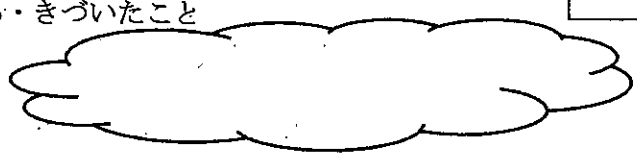
きよくのようす うたいかた

- ・たのしい
- ・あかるい
- ・おおきいやま
- ・よびかけやくは、おおきなこえで
- ・やまびこやくは、ちいさなこえで
- ・ふりつけをつけて

よかったところ・きづいたこと

きくポイント

- ①「やまびこごっこ」
のきよくのようす
にあっているか。
- ②うたいかたをくふ
うできているか。



(5)活動の場

黒板

オルガン

